

みんなのSDGsセンター

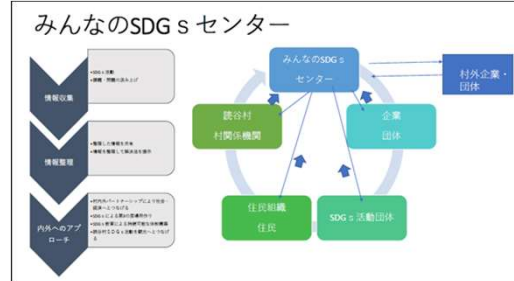
沖縄県中頭郡読谷村役場 × 一般社団法人 SCB CatsWalk

取組概要

一般社団法人 SCB CatsWalkが「みんなのSDGsセンター」事務局を設置し、コロナ下分断・縮小されつつあったSDGs活動の情報を収集し、地域に見える化し、SDGs活動を地域全員が参加する活動とする機会を提供する企画を12月「みんなのSDGsサミット」という形により開催し、目標とする将来の常設SDGsセンターを地域に見える化し地域とSDGs活動を繋げパートナーシップを構築する機会とする。



みんなのSDGsサミットちらし



みんなのSDGsセンター

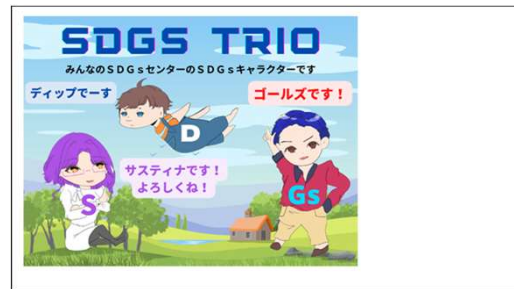
基本情報

代表地方公共団体	沖縄県中頭郡読谷村役場
代表民間団体	一般社団法人 SCB CatsWalk
他の連携団体等	地域応援団 おおとり会
カテゴリ	教育プログラム・学力向上／観光客の誘致／地域振興・交流
事業費	ノーベル平和賞を目指す村民基金 2023年3月
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	2022年5月役場企画提出、6月助成決定、7月事務局設立、12月サミット開催予定、3月ガイド発行予定

取組内容



みんなのSDGsセンター事業内容・目標



中学生制作 センターキャラクター

この取組で解決した課題	コロナ時代を経て、地域社会は貧困問題や高齢化など問題を抱えながら分断化され孤立化し、観光地沖縄では経済的な打撃を受けSDGs活動も進んでいない状況である。また、自然豊かな読谷村ではあるが、環境活動をしている団体も個々の活動を地域レベルに広げることができないのが現状である。SDGs活動が地域に見える化していき、把握されていない為にパートナーシップ構築ができていない。「みんなのSDGsセンター」事務局では、第一にSDGs活動の見える化、それを公けにできる機会をサミットにより提供しパートナーシップを構築し、参加者にSDGsを身近なものとして捉える機会を提供し誰一人取り残さない社会の実現化を計っている。
解決に向けた手法	一般社団法人 SCB CatsWalk内に事務局を7月に設置し、情報収集、ネットワーク作りを始める。みんなのSDGsサミットと称し、12月読谷村文化センター全館及びホールでサミット開催準備中。サミットでは村役場、企業、団体の共同シンポジウム、パネルディスカッション他、環境、社会、経済の各エリアからの講演、発表なども予定。読谷村役場、議会、教育委員会、観光協会、商工会、社会福祉協議会、自治会連合協議会の後援、地元メディアFMよみたん、地元企業、団体、個人の協力のもと、読谷村をSDGs村とする構想のもと、各機関、企業、個人が社会問題の解決のために動ける体制を確立しつつ、観光拠点としての常設SDGsセンターを目指す。

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	SCB CatsWalk 事務局 総合コーディネーター：読谷村役場 助成金、パネルディスカッションコーディネーター、周知：地域応援団 おおとり会 サミットサポートチーム コーディネーター：FMよみたん 広報協力：社会福祉協議会、自治会連合協議会、商工会 周知協力：教育委員会・小中学校、高校：作品募集のための周知協力
地域関係者との連携方法	SDGsセンターを村の支援企画として始める為に村内地域振興企画として助成金申請し、サミットという形で見える化する事により 村役場、教育委員会、議会、他村内団体の後援協力をお願いし、地域SDGs活動団体、個人によるサミットサポートチームを設立し、地域一体型のSDGsセンターを設置するために連携体制を構築。
資金調達方法	助成金、会費、協賛
資金調達方法の補足	
事業推進上の課題・工夫	SDGsは共通のゴールではあるが、実際に情報センター設立のために情報収集したところ、コロナの影響は思ったよりも大きく、SDGs活動がその影響を強く受けていた。そのためにサミットという形でシンポジウム、講演、一般作品発表、審査、表彰、ハンズオン遊び、SDGsグッズ販売、リサイクル市など地域の方々幅広くアプローチできる形で行うことにしたが、過去2年半コロナの影響で制約を受けていたために、地域の中のつながりの機会が少なく各所でネットワークが失われている現実があった。少しずつネットワークを修復してつなげていくために、積極的にコーディネーターしながら地域を取り巻く諸々の団体へアプローチし続けて今回のサミットのように機会を提供することが必要であると思う。

担当者のコメント

企画を進めていく為に、まず地域のSDGs活動や取り組みについての調査から始めましたが、思った以上にコロナの傷跡は深いのに驚きました。良い活動が行われているが、それが一部の人に限られ、社会活動に影響を及ぼすこともなく、問題ばかりが山積みになっています。コロナの経済への影響、教育現場、社会福祉、高齢者社会への影響はそれぞれに深刻です。なによりもコロナにより分断社会となり人と人がつながらないというのは最大の問題点だと思います。SDGsという全体を捉えた活動、そしてつながる社会の再構築が必要で、そのためには地域レベルでのコーディネーターができる機関が必要だと実感しました。またSDGsは環境・社会・経済という輪が重なり合い機能することにより持続可能な社会の実現を目標としています。あまりにも専門的となり地域住民レベルでは自分には関係ないという考えが殆どです。これらの活動をつなげながらSDGsを身近なものとしていく企画・活動も地域に浸透していくために今回のサミットでは色々な企画を入れていきます。（例えば色々なカテゴリーでの一般募集、一般参加型遊び、リサイクル市、健康セミナーなど）

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点 コロナによって分断されているSDGs活動をつなげて環境・社会・経済を一つの輪としてコーディネートしていくために「みんなのSDGsセンター」事務局を発足させ、地域の人々のために「見える化」するために「みんなのSDGsサミット」を開催し、これからの地域内の環境、社会問題へ共に取り組むための基盤を作る。</p> <p>②ステークホルダーとの連携 役場、議会を始め地域の行政、諸団体、企業、また地域レベルで活動する団体との連携は不可欠であるために、それぞれに違う方法でアプローチすることによって地域レベルのパートナーシップを構築している。</p> <p>③モデル性・波及性 このモデルはどの地域でも実施が可能である。また、このような情報センターがなければSDGs活動が地域住民レベルに浸透するのは難しいと思う。実際に、この読谷村の活動は他の地域活動にも影響を及ぼし、他の地域でSDGs活動をしている団体、教育機関からも連携したいとの申し出もある。みんなのSDGsパートナーシップを通じて離島の小学校で講義をしたり、他市のフードバンク団体からも村内貧困家庭へ食料供給へのパートナーシップの申し入れがあるなど影響は拡大している。当団体の常設SDGsセンター設立の目標は、SDGs活動を通じての世代を超えた居場所作り、また観光拠点作りを目指している。</p>
----------------	---